

# 第34回 日本脳卒中学会総会 ランチオンセミナー20

座 長

井上 亨先生 福岡大学 脳神経外科

演 題・演 者

## SPECTによる頸動脈血行再建周術期における合併症出現の予知

小笠原 邦昭先生 岩手医科大学 脳神経外科

日時 平成21年 3月22日(日) 12:10~13:00

会場 島根県民会館 D会場  
〒690-0887 島根県松江市殿町158

本セッションは混雑が予想される為、当日「ランチセミナー整理券」を配布します。  
整理券の配布方法・時間場所は当日、学会総合受付にてご確認ください。

共 催: STROKE 2009  
日本脳神経核医学研究会  
富士フイルムRIファーマ株式会社



FUJIFILM  
富士フイルム RIファーマ株式会社

Quality of Smile

# SPECTによる頸動脈血行再建周術期における合併症出現の予知

小笠原 邦昭 先生 岩手医科大学 脳神経外科

頸部頸動脈分岐部の粥状動脈硬化性狭窄病変に対する血行再建法である内膜剥離術(carotid endarterectomy:CEA)あるいは頸動脈ステント術(carotid artery stenting:CAS)においては、その周術期脳合併症として問題となるのが術中脳梗塞と術後過灌流である。さらに術中脳梗塞の原因として、遮断による大脳半球虚血と頸部頸動脈手術部位からの塞栓に分けられる。症候性病変の発生比率はCEAにおいては、大脳半球虚血:塞栓:過灌流=15:55:30とされ、CASでは大脳半球虚血による術後脳梗塞はさらに少なく、塞栓の比率が高くなる。いずれにしても、術中塞栓症と術後過灌流が最大の問題である。両合併症とも術前脳循環が低下している症例で起こしやすく、低下していなければ起こすことは少ないことが最近の研究で証明された。さらに、脳血流SPECTによるacetazolamide反応性がその予知において最も精度が高いことも証明された。本セミナーでは自験例および文献的にこれらの内容を紹介する。

## About JCNN 日本脳神経核医学研究会について

日本脳神経核医学研究会は、脳核医学に関する基礎および臨床研究の推進とその普及をはかり、それを通じて我が国の学術文化の発展に寄与し、国民の保健と福祉の向上に資すると共に、国際協力につとめることを目的としています。

脳核医学の発展には、放射線科や核医学科において検査を実施する医師や技師に加えて、脳神経外科、神経内科、精神科などで実際の診療に携わる臨床医、装置や医薬品の開発を行う物理工学、薬学、化学などの基礎研究者の協力が不可欠です。本研究会は、これらの学際的な領域の医療関係者や研究者を対象に、セミナーや講演会などを開催して、脳核医学の幅広い普及をめざします。また、脳核医学に関する多くの課題について議論する場を設定して、検査法の確立、臨床使用のためのガイドラインの作成、国際的な枠組みの中で情報交換などを行っていきます。

研究会の会員相互の情報交換には、インターネットを活用して幅広く情報を提供していきたいと考えています。本研究会が主催、共催する行事や関連研究会の案内もホームページでご覧いただけます。会員が情報を共有するとともに、外部に向けて発信できる新しいタイプの研究会を指向して活動を行っていききたいと考えています。この趣旨にご賛同いただき、脳核医学の発展のために、是非本研究会にご参加下さい。

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www2.convention.co.jp/jcnn/>

日本脳神経核医学研究会事務局

〒100-0013 千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞ヶ関ビル18F 日本コンベンションサービス株式会社内  
Tel:03-3508-1214 Fax:03-3508-1302 E-mail:infojcnn@convention.co.jp



JCNN